

9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (中国)		-	-	-
		スーパー（店長）	それ以外	・景気に変化はないが、猛暑の影響で涼味商品の動きが良くなり売上が増加しているものの、来客数は前年の98.2%である。
		スーパー（販売担当）	販売量の動き	・夏休みに入り例年以上に子供連れの客が多く、来客数は前年の107%、販売点数は121%と顕著に増加している。平成30年7月豪雨災害でイベントの中止等、自粛ムードに包まれた感があったが、1か月が経過してやっと客の動向や市場に明るい兆しがみられる。
		コンビニ（エリア担当）	それ以外	・酷暑で季節商材の販売動向が顕著に向上している。
		コンビニ（副地域ブロック長）	販売量の動き	・7～8月は好天が続き、清涼飲料や氷のような夏に伸長する商材の販売量が増加している。今後、たばこの増税も控えており、来店するきっかけも増えていることから景気は好転している。
		コンビニ（支店長）	来客数の動き	・前年同月比で売上は好調に推移している。
		家電量販店（企画担当）	単価の動き	・来客数は減少しているが、販売単価が上昇しているので売上は伸びている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・受注台数が増加傾向である。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・平成30年7月豪雨の影響で減少していた来客数が8月に入ってからは回復傾向である。例年と比べても高水準での来客数となっているが、JRが一部不通のため日によっては大きく影響を受けて来客数が少ない日もある。
		一般レストラン（外食事業担当）	お客様の様子	・6月の売上は前年の90%、7月は平成30年7月豪雨の影響で87%まで低下し、夏休みに入った8月は猛暑の影響でトータルの来客数は前年を割っているものの、低調なディナータイムに比べてランチタイムの来客数が前年比2けたも伸びている。また、宴会予約も2けたの伸長で、お盆前には法人関係の大口宴会が増加している。お盆の売上は前年をクリアしており、特に土日を挟んだ16～19日の売上が良かったが、ファミリーでの来客数がお盆以外は減少している。
		タクシー運転手	単価の動き	・平成30年7月豪雨関係の調査でタクシーを利用する客が増え、売上は増加している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・8月はイベントがあるので人出が多く、猛暑でタクシー利用が増え、夜の客の動きもあって景気が良い。
		通信会社（総務担当）	販売量の動き	・新規加入キャンペーンで獲得する件数が増加傾向にある。
		テーマパーク（業務担当）	来客数の動き	・お盆期間に来客数が増加し、その後少し気温が落ち着いてきたことから、週末を中心に比較的に来客数が多い。平成30年7月豪雨災害から1か月経ち、交通機関が回復してきたことも来客数増加の要因となっている。
		設計事務所（経営者）	販売量の動き	・平成30年7月豪雨の被災者の住み替えとして、中古住宅の売買や賃貸物件の取引による耐震リフォームの需要が増えている。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・平成30年7月豪雨と猛暑の影響が落ち着きつつあり、客にも建築計画を具体的に考える余裕が出ている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・暑すぎる天候の影響で景気が悪く、昼間の来客数が非常に少ない。
		商店街（代表者）	単価の動き	・平成30年7月豪雨の影響から多少回復し、売上が前年をクリアしている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の低価格志向は続いており、必要な商品を必要な量だけ購入する。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	来客数の動き	・不昧公200年祭で当社の売上は良いが、それ以外では客が消費を控えている状況が続く、売上が増加しないのが当地の実態である。
	一般小売店〔食品〕（経営者）	来客数の動き	・平成30年7月豪雨の影響で一時的に全ての部門で売上が好調に推移しているが、青果物価格の高騰など特殊要因が重なったの現況なので、それを除くと変化はない。	
	百貨店（経理担当）	販売量の動き	・猛暑で来客数が前年より10%程度落ち込んだことが影響し、好調な化粧品と紳士衣料以外の売上が悪く、全体の売上は前年を大きく下回る。	

百貨店（広報担当）	販売量の動き	・消費者の取捨選択はより厳しくなっており、安いからとむやみに買うのではなく、本当に欲しいものを厳選する傾向である。
百貨店（購買担当）	お客様の様子	・気温が前年よりかなり高く、例年であれば秋物が動き始める時期であるが、客は夏物商材を求めており衣料品関係は厳しい。一方、食品はギフト解体の売上が上昇しており、景気は厳しいが、客は上手な買物をしている。
百貨店（人事担当）	単価の動き	・3か月前に比べて来客数と客単価に大きな変化はないが、平成30年7月豪雨と台風でのマイナス影響からは回復しつつある。
スーパー（店長）	販売量の動き	・安くても販売数量が伸びず3か月前と変わらない。
スーパー（管理担当）	来客数の動き	・客単価は上昇しているが、来客数の減少が顕著で売上も減少している。
スーパー（業務開発担当）	販売量の動き	・野菜価格が大幅に上昇し、販売点数は微減である。暑さで飲料と冷菓の売上が増加している。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・国内経済の情勢が混とんとしている。
衣料品専門店（店長）	単価の動き	・平成30年7月豪雨被害による商品の買い足しで、客単価に大きな変化はないが、来客数が増加しているため売上が改善している。
家電量販店（店長）	お客様の様子	・記録的猛暑であるが、エアコンの販売量が増えることはなく、客は必要な商品しか購入しない。
乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・8月の販売量は伸びなかった前年と比較すれば110%と好調であるが、一昨年と比較するとほぼ同じである。
その他専門店〔時計〕（経営者）	販売量の動き	・高額品の販売はない。
その他小売〔ショッピングセンター〕（管理担当）	来客数の動き	・直近の2～3か月は天候に振り回されて、客の動向は良くない。平成30年7月豪雨災害の影響で道路が寸断され物流が滞り、また、高気温で客の外出意欲と購買意欲は高まらない。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・悪天候や平成30年7月豪雨の影響で景気の悪い状況が続いている。
観光型ホテル（営業担当）	販売量の動き	・平成30年7月豪雨災害は観光業に甚大な影響を与えており、販売量の低下がみられる。
都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・平成30年7月豪雨の発生や台風等により、帰省客や観光客の減少が著しく、足元のホテルを始めとする観光業界は大きな痛手を受けている。また、法人企業等の自粛による宴会の中止や婚礼などのキャンセルで減収影響は計り知れない。
都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・7月初旬の宿泊予約数は不昧公200年祭や山陰デスティネーションキャンペーンなどにより好調に推移していたが、平成30年7月豪雨の影響で大幅に落ち込み、8月も伸び悩んでいる。
旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・平成30年7月豪雨の影響で客は旅行に行く雰囲気ではない。
通信会社（総務担当）	それ以外	・一部エリアによっては平成30年7月豪雨災害の復旧特需が想定されるが、県全体では影響は少ない。
通信会社（工事担当）	お客様の様子	・客の様子から景気に変化はない。
通信会社（企画担当）	お客様の様子	・今夏は酷暑となり、平成30年7月豪雨で被災した地域もあり、イベント等の集客は予想を下回っているものの、売上にはおおむね変動がない。
テーマパーク（管理担当）	来客数の動き	・前年同月比で、来客数と商品販売高等が微減で推移している。
美容室（経営者）	お客様の様子	・客の所得に変化はなく、節約志向は強まっている。
設計事務所（経営者）	来客数の動き	・住宅の新築やリフォームの引き合いが低調な状況に変化はなく、異常な気温が続いたことで取引先でも同様の状況である。
商店街（代表者）	お客様の様子	・平成30年7月豪雨災害からの復興が一部ではできていないため、3か月前と比べて景気はやや悪い。
商店街（理事）	お客様の様子	・平成30年7月豪雨の影響で客に自粛ムードがある。野菜価格の高騰による買い控えや暑さで外出を避ける客もあり、商店街の客足も伸びない。
商店街（代表者）	来客数の動き	・平成30年7月豪雨と猛暑の影響で全体的に消費動向が悪化している。さらに、観光客数もかなり減少している。

一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	来客数の動き	・猛暑の影響で来客数が減少している。
一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	販売量の動き	・猛暑で客の動きが悪い。
一般小売店〔印章〕（経営者）	来客数の動き	・猛暑が続き来客数が減少しており、売上に影響が出ている。
一般小売店〔靴〕（経営者）	お客様の様子	・平成30年7月豪雨以来、消費が冷え込んで回復していない。
百貨店（営業担当）	販売量の動き	・平成30年7月豪雨以来、落ち込んでいた来客数と販売量が8月中旬から回復し始めている。冬物コートを始めとして商品の動きは前年同様となっている。
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・猛暑に加え台風の影響もあり、来客数が減少している。また、平成30年7月豪雨の影響も残っており、厳しい状況が続いている。
百貨店（売場担当）	お客様の様子	・端境期である今月は酷暑であり、夏物セールの奉仕品やギフト解体セールなどの価格訴求品しか動かない状況である。
百貨店（営業企画担当）	お客様の様子	・平成30年7月豪雨災害や台風の連続通過、降雨なしの酷暑等、来客数への影響が大きい。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・貴金属や美術品の動きが悪く、厳しい状況である。
百貨店（売場担当）	お客様の様子	・平成30年7月豪雨や台風などの影響で食料品の動きは良いが、衣料品の動きが悪く、秋物への客の関心が薄い。
スーパー（店長）	販売量の動き	・ここ数日の来客数は、前月に比べ減少傾向である。残暑はあるものの、朝と夜の気温低下により、飲料関係の販売数が減少している。9月以降も残暑が続く予報なので、気温と季節感の両方で中途半端になり、全体的な販売数の増加は見込めない。
スーパー（総務担当）	来客数の動き	・野菜等の生鮮品の価格高騰で客単価は上っているが、来客数では減少している。
スーパー（財務担当）	来客数の動き	・平成30年7月豪雨の影響が続いており、来客数、売上共に前年を上回っている店舗はあるものの、全体では来客数の減少を1品単価の上昇でカバーすることで既存店売上は前年を確保している。
スーパー（販売担当）	お客様の様子	・平成30年7月豪雨と猛暑の影響で客は本当に必要な商品しか購入しないため、値下げした夏物商材は売れていない。また、秋物商材の動きも悪く、旅行をキャンセルしたと話す客もいる。
衣料品専門店（経営者）	競争相手の様子	・閉店する店が増えている。
家電量販店（店長）	来客数の動き	・業界が縮小傾向にあるとはいえ、暑さが追い風になったはずなのに来客数が前年の80%前後と減少が著しい。客の財布のひもが固いことの表れである。
家電量販店（店長）	来客数の動き	・平成30年7月豪雨の被災地なので来客数が減少している。
家電量販店（販売担当）	来客数の動き	・来客数がかなり減少している。
乗用車販売店（総務担当）	来客数の動き	・新規来客数が少なく、整備入庫が客のほとんどを占めている。
乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・展示台数の不足など品ぞろえの問題があるが、前年度より来客数が減少している。
乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・平成30年7月豪雨の影響で特にサービス入庫の来客数が激減している。
自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・前年同月に比べると販売量は低調に推移している。平成30年7月豪雨災害のため、自動車関連販売店では、中古軽自動車販売店など売行きの良い業態と、当社のように備品しか扱わないため売行きの振るわない業態とがある。
その他専門店〔土産物〕（経営者）	お客様の様子	・平成30年7月豪雨に続き台風通過で、客がゆっくりと買物を楽しむ雰囲気ではない。観光バスも少なく、イベントなども自粛傾向で客に活気はない。
その他専門店〔和菓子〕（経営者）	来客数の動き	・平成30年7月豪雨災害の影響が続いている。
その他専門店〔布地〕（経営者）	お客様の様子	・猛暑で来客数が減少しており、商品を購入する客も少ない。

	その他小売 [ショッピング センター] (所 長)	来客数の動き	・平成30年7月の豪雨以降、スーパーや家電店は改装後も好調に推移しているが、衣料や飲食の不振が全体の来客数減少につながっている。	
	一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・平成30年7月豪雨の影響で人の動きが悪く、客の消費が鈍っている。	
	スナック(経営 者)	来客数の動き	・平成30年7月豪雨災害の影響に加えて猛暑続きで客足が鈍り、当業界は最悪の状況である。	
	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・平成30年7月豪雨の影響で交通インフラの寸断や風評被害でキャンセルが出ている。	
	都市型ホテル (企画担当)	販売量の動き	・平成30年7月豪雨災害で、特にJR在来線の不通の影響が大きい。	
	旅行代理店(営 業担当)	販売量の動き	・平成30年7月豪雨の影響で秋以降の需要にキャンセルなどの影響が出ている。	
	通信会社(広報 担当)	お客様の様子	・客は品質よりも価格重視で商品を選ぶ傾向にあり、余り景気が良くなっていない。	
	テーマパーク (営業担当)	来客数の動き	・平成30年7月豪雨に続いて記録的な酷暑により来客数が減少している。	
	観光名所(館 長)	来客数の動き	・平成30年7月豪雨に伴う風評被害、8月は2つの台風襲来や酷暑により来客数が減少している。	
	ゴルフ場(営業 担当)	来客数の動き	・猛暑が続き、台風が発生したこともあり、来客数は減少している。	
	競艇場(企画営 業担当)	販売量の動き	・G1競争があった5月の売上には及ばない。	
	設計事務所(経 営者)	来客数の動き	・来客数が減少し、同業他社でも着工数が減少するなど全体の動きが鈍い。	
	×	コンビニ(エリ ア担当)	単価の動き	・来客数と客単価が前年を割っており、厳しい状況である。
	×	乗用車販売店 (店長)	お客様の様子	・平成30年7月豪雨の影響で客の動きは鈍いが、一時期のどん底状態からは抜け出している。盆明けの来客数はサービス入庫客を中心に増えつつある。
	×	住関連専門店 (営業担当)	来客数の動き	・来客数が減少し、売上は前年同月比で毎月低下している。
	×	その他飲食 [サービスエリ ア内レストラ ン](店長)	来客数の動き	・平成30年7月豪雨災害で行楽などの外出機会が減少している。
	×	美容室(経営 者)	来客数の動き	・平成30年7月豪雨の影響でイベントが中止され、それに伴う注文がなくなり売上が激減している。
企業 動向 関連	輸送用機械器具 製造業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・多忙な生産状況が続いている。	
(中国)	化学工業(総務 担当)	受注量や販売量 の動き	・一部化学品の出荷が好調で、価格も是正されているため売上利益が良い。全般的に出荷が好調である。	
	建設業(総務担 当)	受注量や販売量 の動き	・当面の受注に不安はない。	
	金融業(貸付担 当)	受注量や販売量 の動き	・自動車や有機化合物の輸出が堅調で、前年比プラスとなっている。	
	広告代理店(営 業担当)	受注量や販売量 の動き	・時期的内容での受注案件が他業種からあり、若干上向きに推移している。	
	会計事務所(経 営者)	取引先の様子	・平成30年7月豪雨災害の物流面や企業生産活動への影響が予想より深刻ではなく、早期の回復を見せている。災害発生当初に催事等を自粛した動きも終息しつつある。	
	農林水産業(従 業員)	受注価格や販売 価格の動き	・環境の変化や異常気象の影響で水揚量も減少しているなかで、単価を上げることがなかなか難しい。	
	食料品製造業 (総務担当)	受注量や販売量 の動き	・平成30年7月豪雨の影響で販売量が減少している。	
	繊維工業(監査 担当)	受注量や販売量 の動き	・当業界は現在閑散期で、次期シーズンの準備段階にあるため景気の動向は変わらない。	
	木材製品製造 業(経理担当)	受注量や販売量 の動き	・台風など天候不順や平成30年7月豪雨により、客の購買意欲が低下している。	
	化学工業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・主要原料である苛性ソーダの値上げが一段落し、値上げ要因による底上げ分の増収を除くと、緩やかに増加した受注量も現在は安定している。	
	窯業・土石製品 製造業(総務経 理担当)	受注量や販売量 の動き	・生産水準が高く、納期対応で時間外労働は高水準の状態が続いており、大型案件の引き合いもあり現状が当面継続する。	
	鉄鋼業(総務担 当)	取引先の様子	・人手不足や部品入荷遅れ等による生産量の制約があるため期待ほどの活動水準になっていない。	

	非鉄金属製造業 (業務担当)	受注量や販売量 の動き	・電子材料素材の販売量が中位で安定している。
	金属製品製造業 (総務担当)	受注量や販売量 の動き	・受注量、販売量共に前月と同水準で推移している。
	一般機械器具製 造業(経営企画 担当)	受注量や販売量 の動き	・需要の低迷が続き、販売量が伸びない。
	輸送用機械器具 製造業(財務担 当)	受注価格や販売 価格の動き	・若干の市況回復機運はあるものの、鋼材の高騰や船腹過剰は解決しておらず、引き続き各社とも変わらず低採算の状態が続いている。
	輸送用機械器具 製造業(経営企 画担当)	受注量や販売量 の動き	・主要客からの受注内示量に変化はないものの、平成30年7月豪雨災害や台風の影響で生産実績は大幅に減少している。
	建設業(総務担 当)	受注量や販売量 の動き	・平成30年7月豪雨の影響で予定外の物件対応があり、手持物件で手一杯の状況が続いている。
	輸送業(総務担 当)	取引先の様子	・取引先の受注量に大きな変化はない。
	通信業(営業担 当)	受注量や販売量 の動き	・平成30年7月豪雨の特需はなく、例年同月と変わらない販売状況である。
	金融業(融資企 画担当)	取引先の様子	・地元自動車部品メーカーの受注が高水準を維持している。系列完成車メーカーのスポーツ用多目的車の世界販売が好調で、部品単価も比較的高いため利益も好調に推移している。一方で、生産現場の人手不足感は強まっている。
	不動産業(総務 担当)	受注量や販売量 の動き	・平成30年7月豪雨の特需を除けば、来客数、成約件数はほぼ横ばいである。
	食品製品製造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・帰省客の購買を見込んでいたが、受注量が前年より7%低下しており、猛暑の影響で生鮮食品の売上も低下している。
	輸送業(支店 長)	受注量や販売量 の動き	・平成30年7月豪雨の影響で出し控えていたギフト関係と企業の荷物の動きが月初めから活発になっているが、益明けから荷動きが停滞し、物流の動きが鈍っている。
	輸送業(経理担 当)	受注量や販売量 の動き	・平成30年7月豪雨の影響が大きく、鉄道と倉庫関連で荷動きが悪い状況である。
	通信業(営業企 画担当)	取引先の様子	・平成30年7月豪雨以降、被災した取引先では社内設備の復旧が先決となっており、年度計画外の設備投資についての検討が手付かずの状態となっている。
	x	-	-
雇用 関連			
(中国)	人材派遣会社 (支店長)	求職者数の動き	・求職者数は増加している。
	人材派遣会社 (経営企画担 当)	求人数の動き	・採用難から多数の求人残を抱えている。
	求人情報誌製作 会社(広告担 当)	周辺企業の様子	・7～8月に学生の内定辞退を受け、秋採用という名目で追加募集をかけている企業があるが、売手市場を受けて新卒あるいは20代の若手社員の採用に苦戦している。営業系や事務系は採用できても技術系の採用が特に困難で、新卒については事務系を採用し、時間をかけて技術系に育てることを検討する企業が増加している。
	職業安定所(所 長)	求人数の動き	・新規求人は、乳製品や食肉加工など食品製造業が前年同月比で2割増となったほか、人手不足から派遣会社の求人が増加傾向にあるサービス業が6割増と好調な業種がある一方、平成30年7月豪雨が影響した宿泊業が3割減となるなど、求人全体では横ばいとなっている。
	職業安定所(事 業所担当)	求人数の動き	・以前に比べると求人窓口の待ち時間が減少し、落ち着きを取り戻しているが、有効求人数は8か月連続して前年同期を上回っている状況でもあり、企業の募集活動は引き続き活発である。
	民間職業紹介機 関(職員)	採用者数の動き	・これまで手薄であった正社員の営業事務を同時期に2人採用し、数か月先にもう1人の採用を検討している営業所がある。また、営業社員の募集も行っており、事業の拡大に向けて投資も含め積極的に動いている。
	民間職業紹介機 関(人材紹介担 当)	求人数の動き	・人手不足であるが、求人数に動きはない。

	学校 [短期大学] (進路指導担当)	求人数の動き	・ 求人数に顕著な変化がない。
	人材派遣会社 (支社長)	求人数の動き	・ 無期雇用、雇用安定措置、抵触日など法律対応に手を取られて営業活動に時間が割けない。求人獲得数も減っており、求職者は派遣会社を通さずとも仕事が決まりやすい時代なので業績は伸びていない。
	求人情報誌製作会社 (経営者)	求人数の動き	・ 3 か月前と比較して求人数は伸びていない。特に平成30年7月豪雨の影響もあり、一部地域の求人数が減少傾向である。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	それ以外	・ 企業の採用意欲は高く、有効求人倍率は依然高い水準ながら、平成30年7月豪雨により当県経済へのダメージがやや危惧される。
x	-	-	-